

マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社 2019年3月期 決算説明会資料（プレゼン編）

2019年5月7日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

第一部

- I 2019年3月期実績（連結）
- II 2020年3月期予想（連結）
- III 株主還元

第二部

- I 新グループビジョン
- II 中期経営計画（2019～2021年度）

第一部

I 2019年3月期実績（連結）

II 2020年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 新グループビジョン

II 中期経営計画（2019～2021年度）

3

I 2019年3月期実績

連結業績ハイライト（前年比）

（単位：億円）	2017年度 実績	2018年度 実績	差異	前年比	増減要因
売上高	5,041	5,242	201	4.0%	車載市場向けや産業機器市場向けが好調
売上総利益	561	611	50	8.9%	売上増加及び売上総利益率の改善により
営業利益	152	153	1	1.1%	退職給付債務に関して当期末の国債割引率にて再計算した結果7億円を追加計上
経常利益	149	131	▲18	▲12.3%	外貨建債権債務の決済等により10億円の為替差損、ドル建て借入金の増加や利上げにより11億円の支払利息が発生
親会社株主に帰属する当期純利益	114	89	▲25	▲22.2%	関係会社株式評価損2億円、投資有価証券評価損1億円の発生により

4

連結業績ハイライト（予想比）

（単位：億円）	2018年度 予想 (5/1発表)	2018年度 実績	差異	予想比
売上高	5,300	5,242	▲58	▲1.1%
売上総利益	596	611	15	2.5%
営業利益	160	153	▲7	▲4.2%
経常利益	158	131	▲27	▲17.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	110	89	▲21	▲19.2%

連結貸借対照表

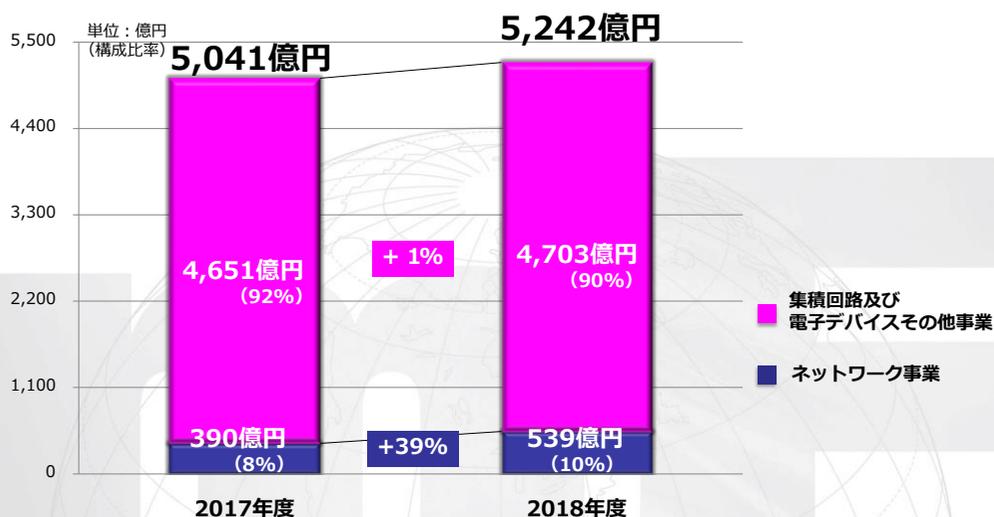
（単位：億円）	2018年 3月末	2019年 3月末	主な要因
流動資産	2,494	2,769	現金及び預金が146億円減少したものの、売上債権が27億円、商品が153億円、未収入金が233億円増加
固定資産	173	224	のれんが3億円減少したものの、関係会社株式の取得により投資有価証券が41億円増加
資産合計	2,667	2,993	
流動負債	1,252	1,495	仕入債務が52億円減少したものの、短期借入金が254億円、その他の流動負債が35億円増加
固定負債	133	143	長期借入金が9億円増加
負債合計	1,385	1,639	
純資産合計	1,282	1,354	利益剰余金が63億円、為替換算調整勘定が9億円増加
負債純資産合計	2,667	2,993	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)	2017年度	2018年度	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	▲286	▲302	税金等調整前当期純利益128億円の増加があったものの、未収入金の増加、たな卸資産の増加及び仕入債務の減少があったことによるもの
投資活動による キャッシュ・フロー	▲18	▲73	有形・無形固定資産の取得に伴う支出及び関係会社株式の取得による支出があったことによるもの
財務活動による キャッシュ・フロー	437	219	配当金の支払いがあったものの、短期・長期借入金の純増があったことによるもの
現金及び現金同等物の 期末残高	288	140	前連結会計年度末の288億円に比べ147億円減少

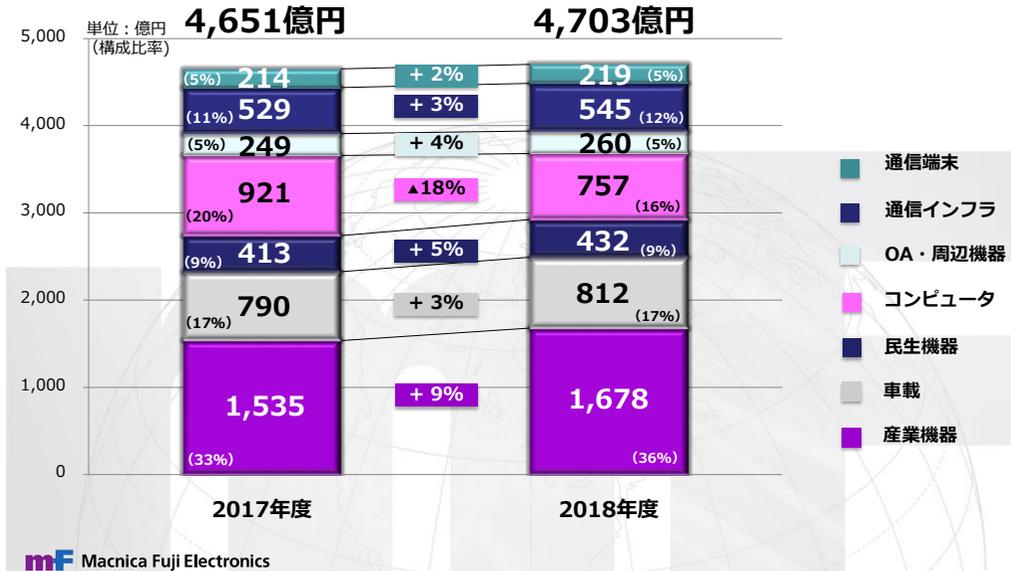
セグメント別：連結売上高

5,242億円 前年比+4.0%



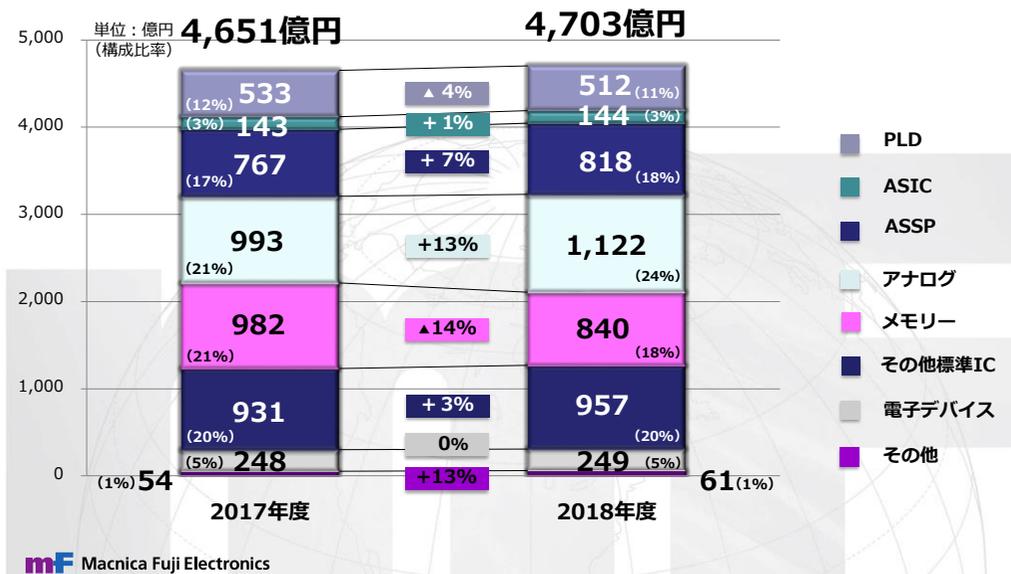
集積回路及び電子デバイスその他事業（用途別）

4,703億円 前年比+1.1%



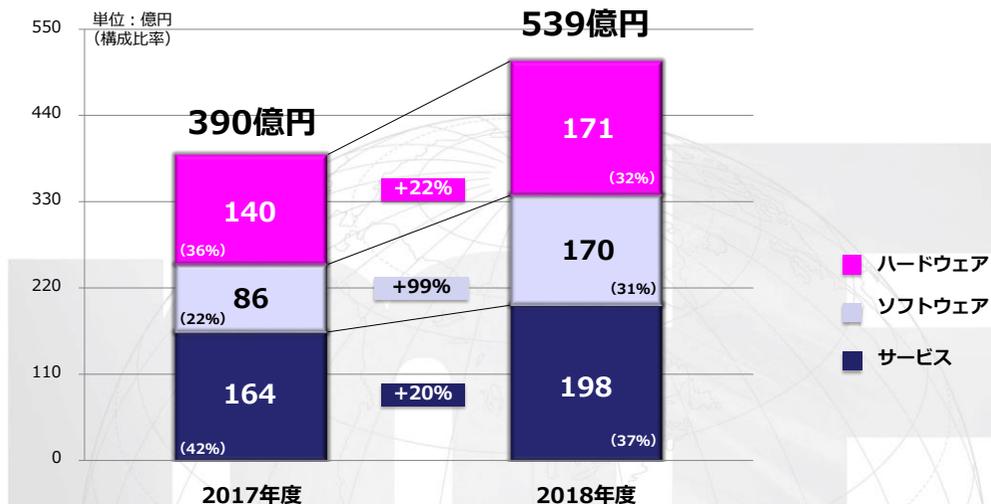
集積回路及び電子デバイスその他事業（品目別）

4,703億円 前年比+1.1%



ネットワーク事業（品目別）

539億円 前年比+38.6%



第一部

I 2019年3月期実績（連結）

II 2020年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 新グループビジョン

II 中期経営計画（2019～2021年度）

連結予想ハイライト

(単位：億円)	2018年度 実績	2019年度			前年比
		上期予想	下期予想	通期予想	
売上高	5,242	2,540	2,860	5,400	3.0%
集積回路及び電子デバイス その他事業	4,703	2,289	2,552	4,841	2.9%
ネットワーク事業	539	251	308	559	3.7%
売上総利益	611	294	338	632	3.5%
営業利益	153	66	89	155	1.1%
経常利益	131	57	78	135	3.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	89	38	52	90	1.3%

集積回路及び電子デバイスその他事業

引き続き予断を許さない状況が続く

- 車載は、半導体搭載率の増加により引き続き伸長する見通し
- 産業機器は、設備投資抑制や在庫調整、中国向けビジネスの減速を見込む



ネットワーク事業



セキュリティ関連が引き続き牽引

- 高度化したサイバー攻撃への対策やGDPR等の法規制を始めとしたコンプライアンス対応等のセキュリティ関連商品が引き続き牽引する見込み
- モバイル、クラウド関連やデジタルトランスフォーメーション関連商品が伸長する見通し



第一部

I 2019年3月期実績 (連結)

II 2020年3月期予想 (連結)

III 株主還元

第二部

I 新グループビジョン

II 中期経営計画 (2019~2021年度)

配当について

● 配当方針

将来の事業展開と経営体質の一層の充実・強化のために必要な内部留保を確保するとともに、株主の皆様に対し極力利益を還元すること、諸般の情勢を勘案しつつも安定した配当の継続に努めることといたします。毎事業年度における配当の回数についての基本的な方針は、中間配当並びに期末配当の年2回を原則とします。

● 配当予想

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	17.50	32.50	50.00
2019年3月期	25.00	25.00	50.00
2020年3月期（予想）	25.00	25.00	50.00

第一部

I 2019年3月期実績（連結）

II 2020年3月期予想（連結）

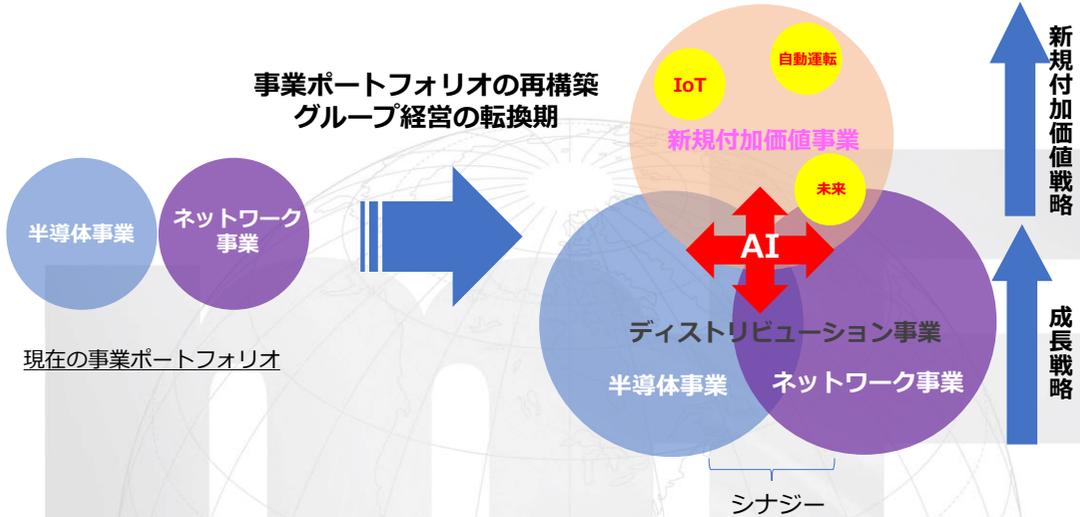
III 株主還元

第二部

I 新グループビジョン

II 中期経営計画（2019～2021年度）

新グループビジョンの策定にあたって



新グループビジョン

Vision

私たちは、
社会の可能性を拡張し、
活気ある明日を創造するための
最良の共創者になります。

Mission

私たちは、
変化の先頭に立ち、
あらゆるモノをつなぐことで、
世界中の人々にとって
幸せな未来社会をつくれます。

Co. Tomorrowing

Value

私たちの価値は、
最先端のテクノロジーと
インテリジェンスをつなぐ力、
社員一人ひとりの自立と熱意、
そしてチーム力にあります。

第一部

I 2019年3月期実績（連結）

II 2020年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 新グループビジョン

II 中期経営計画（2019～2021年度）

II 中期経営計画（2019～2021年度）

グループを取り巻く環境



前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り



成長の追求による優位ポジションの確立

1 成長戦略

- ① 統合効果によるシェア拡大
- ② グローバル戦略の強化
- ③ ネットワーク事業の強化
- ④ 成長加速の施策

2 中期経営目標

2015年11月発表

前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

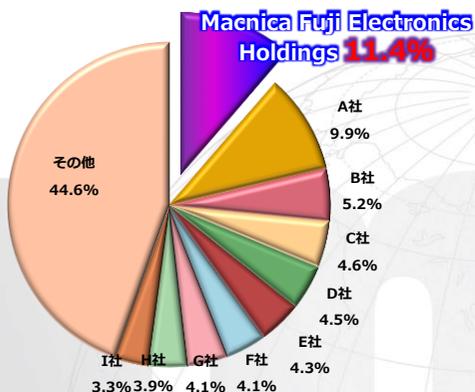


■ 統合効果によるシェア拡大：国内（半導体事業）

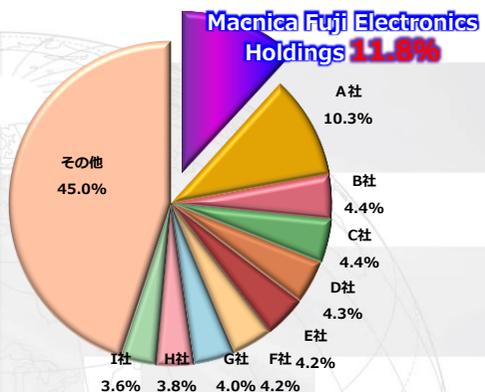
半導体商社の半導体売上シェア（日本市場）

Source: Gartner, "Market Share: Semiconductor Distributors, Worldwide, 2018", Masatsune Yamaji, 22 February 2019, Chart created by Macnica based on Gartner data.

CY2017



CY2018



【免責事項】

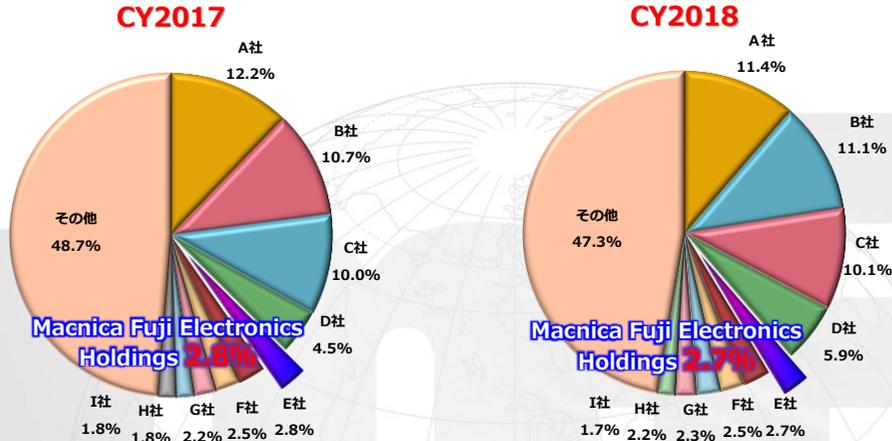
ここに述べられたガートナーのレポート(以下「ガートナーのレポート」)は、ガートナーのシンジケート購読サービスの一部として顧客向けに発行されたデータ、リサーチ、オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この目録見書/企業レポート発行時点のものではありません。またガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ 統合効果によるシェア拡大：グローバル（半導体事業）

半導体商社の半導体売上シェア（世界市場）

Source: Gartner, "Market Share: Semiconductor Distributors, Worldwide, 2018", Masatsune Yamaji, 22 February 2019, Chart created by Macnica based on Gartner data.

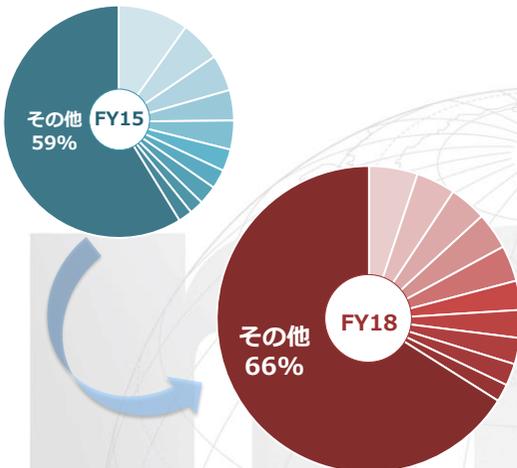


【免責事項】
ここに述べられたガートナーのレポート(以下「ガートナーのレポート」)は、ガートナーのシンジケート購読サービスの一部として顧客向けに発行されたデータ、リサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この目録見書/企業レポート発行時点のものではありません。またガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

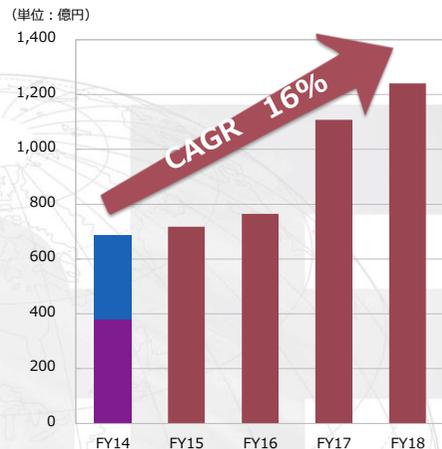
前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ 総合力による中堅・中小規模顧客への浸透

Top 10 Customers FY2015 vs FY2018

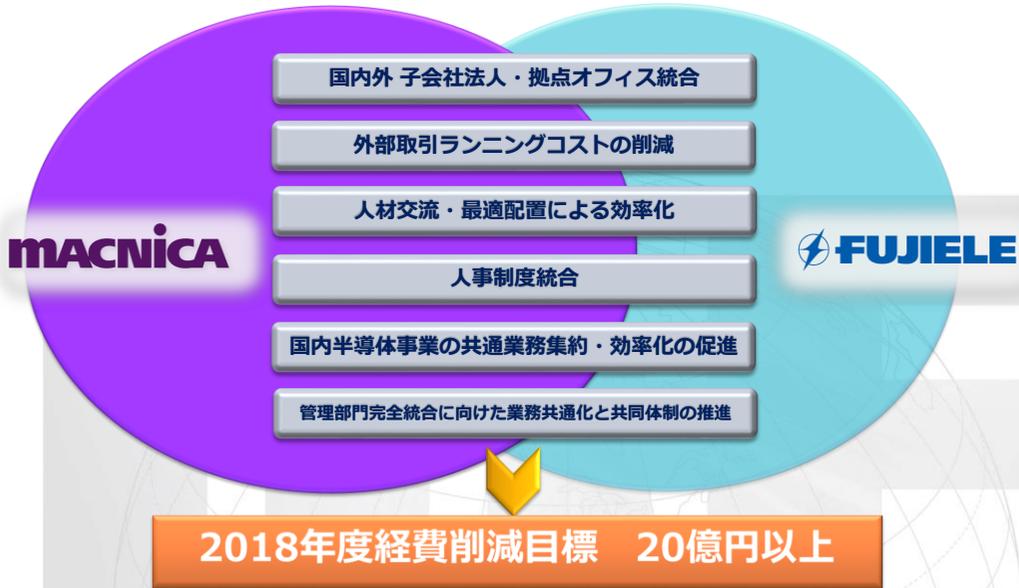


Growth in Industrial Segment (Domestic)



前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ 統合による生産性・経営効率の向上



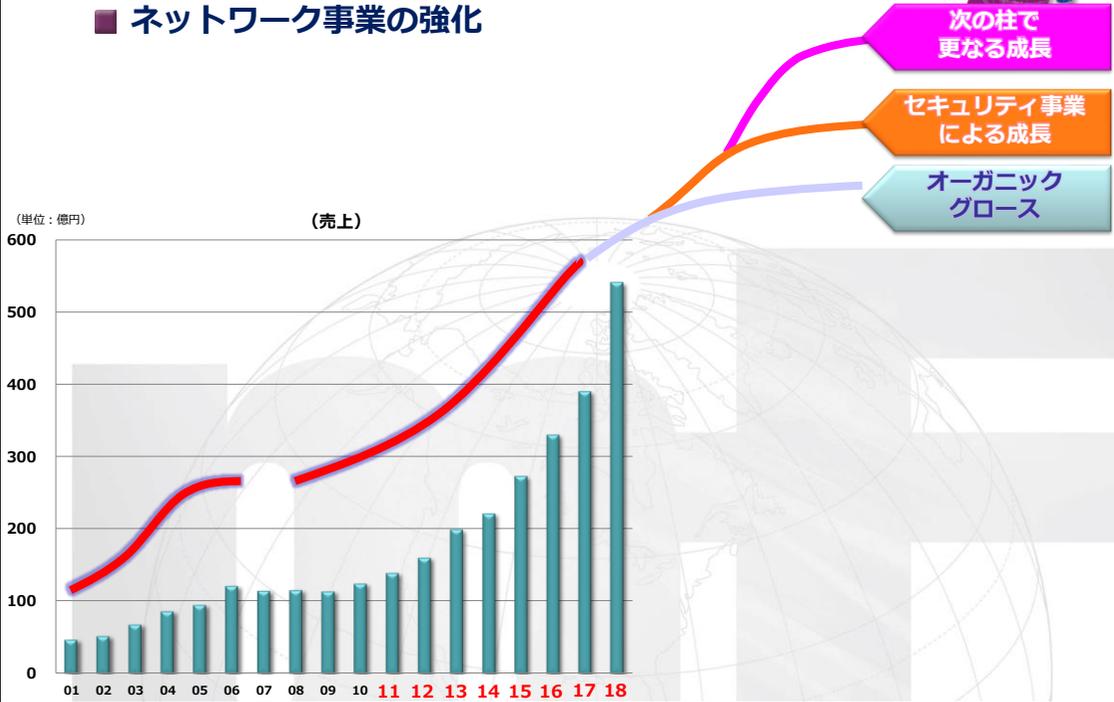
前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ グローバル戦略の強化（半導体事業）



前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ ネットワーク事業の強化



前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ 成長加速の施策

自動運転ソリューション
自動運転実証車両

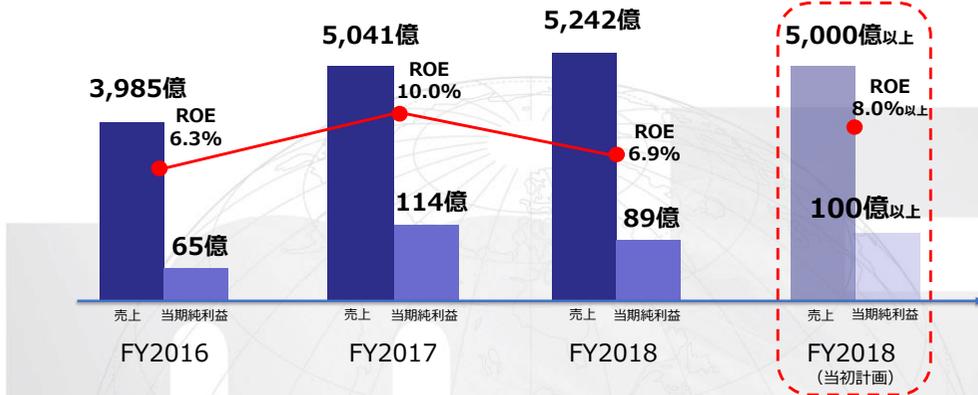


デリバリー
サービスロボット



前中期経営計画（2016～2018年度）の振り返り

■ 中期経営目標

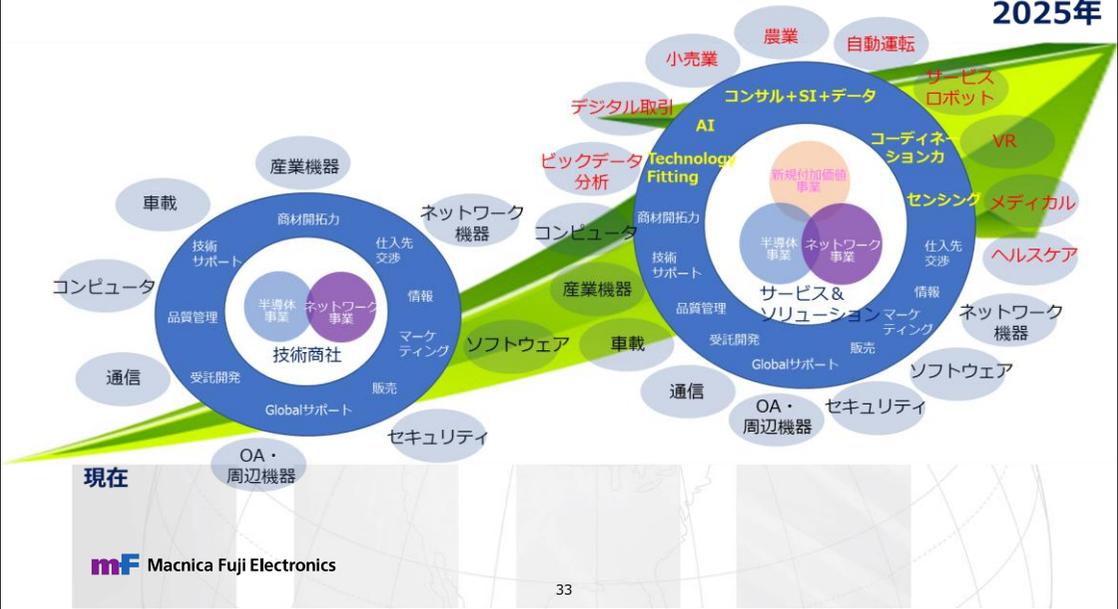


位置付けと概要

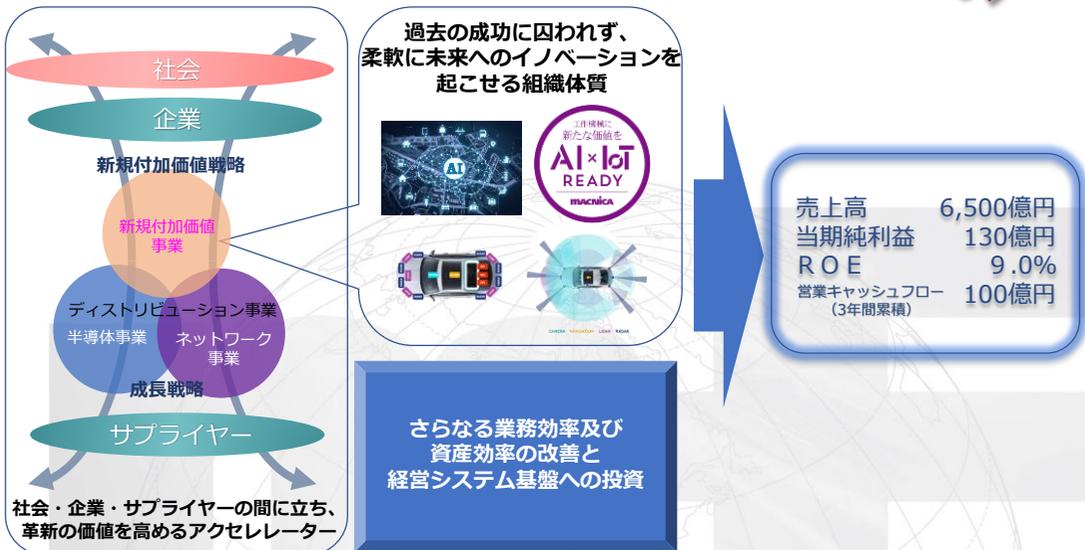


位置付けと概要

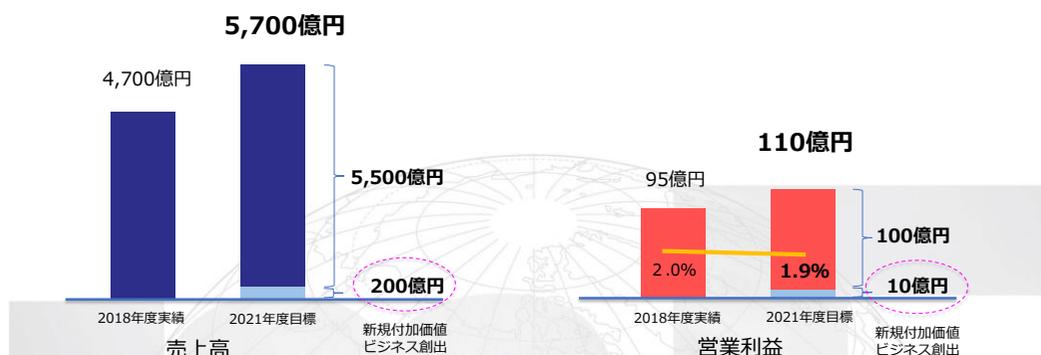
我々の独自の技術力・開発力そしてソーシング力で
半導体からAIまで、これからの時代のプラットフォームとなる技術に寄り添い、
世界中のあらゆる産業と企業と共に、その進化・活用を加速させていきます。



位置付けと概要

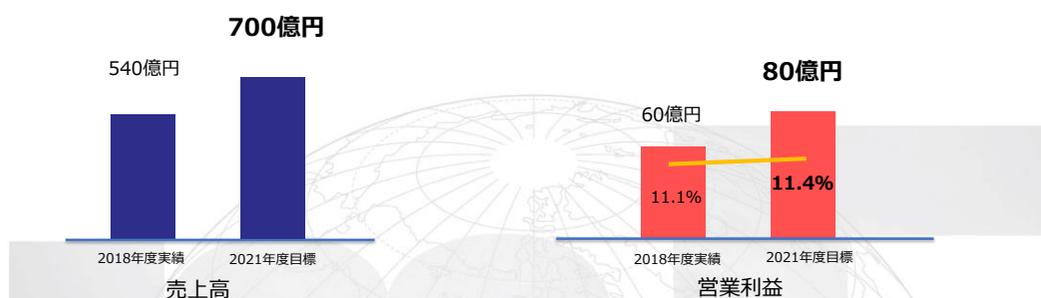


1 成長戦略：①半導体事業



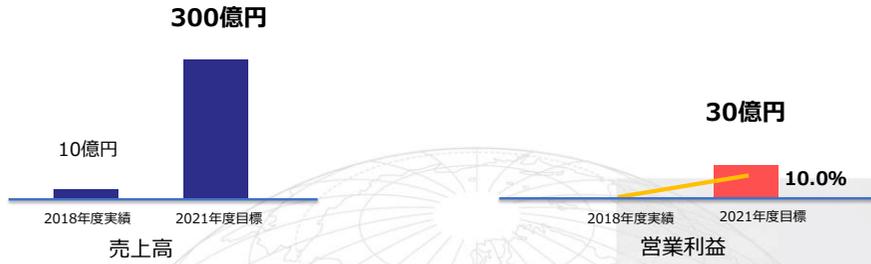
①グローバルポジションの確立	アジアにおけるさらなるM&Aの検討
②半導体を応用した付加価値ソリューション	半導体に拘らないハードウェア、ソフトウェアの幅広いソリューション

1 成長戦略：②ネットワーク事業



①セキュリティ	セキュリティ市場での圧倒的に優位なポジションの確立
②デジタルソリューション	ビッグデータ分析基盤、AIをはじめとするDXソリューションの立ち上げ
③グローバル	アジアにおけるセキュリティビジネスの成長

2 新規付加価値事業戦略

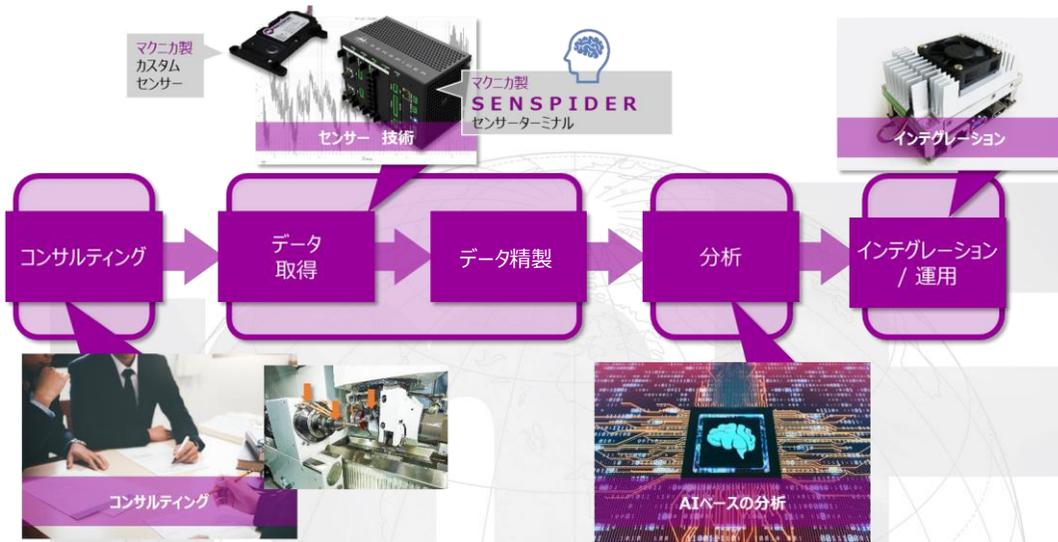


①IoTソリューション	AI(IT) x Sensing(OT)を活用したコンサル、SI、Dataサービス
②自動運転ソリューション	自動走行に必要なソリューションとサービスをワンストップで提供
③サービスロボット	デリバリーサービスロボット、自動清掃ロボット
④macnica.ai	フルカスタマイズAIプラットフォーム、AIモデル開発・組み込み、DIY型AIモデル開発、AI関連ソリューション

2 新規付加価値事業戦略



IoTソリューション



2 新規付加価値事業戦略

■ 自動運転ソリューション

“macniCAR”

自動運転車両の
センサー開発・評価
ソフトウェア開発・評価
アルゴリズム開発・評価



AI プロセッサー



高精度センサー

“macniCART”

低速モビリティ
実証実験
サービスの検証
運行管理システム開発・検証
社会受容性の検証



運行管理システム



“macnica.ai”

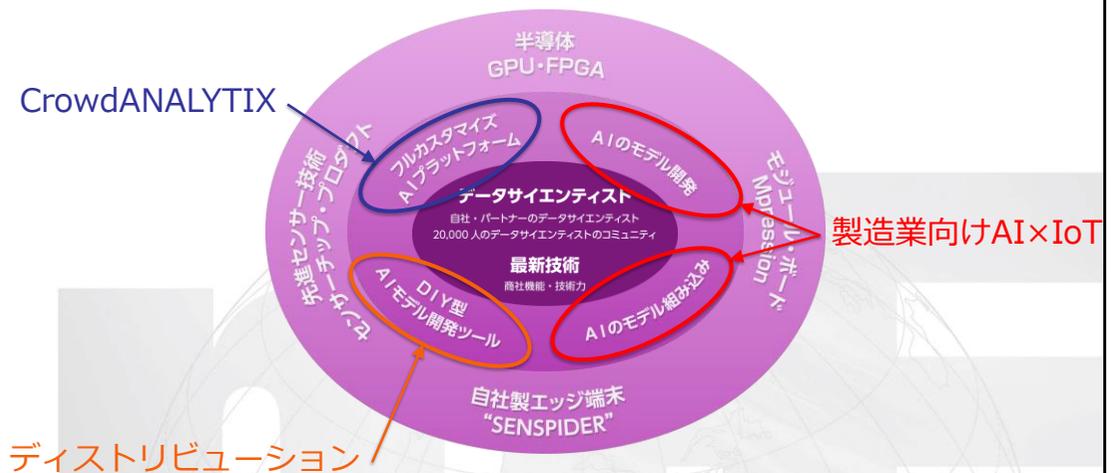


コンサルティング	データ収集	アノテーション(データ前処理)	AI構築・評価・システム化
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 課題は明確か？ ✓ 経済的インパクトは？ ✓ データは取得済みか？ ✓ 保有データは有効なものか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必要なセンサー種類の提案 ✓ センサー取付位置の提案 ✓ データの蓄積 (各センサー間の時刻同期) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 正解データのタグ付け <ul style="list-style-type: none"> ・パウンディングボックス ・セグメンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 適切なAIモデルの選定・構築 ✓ アルゴリズム開発・チューニング ✓ 網羅的な性能評価 ✓ PoC環境の構築 ✓ 製品への組み込み

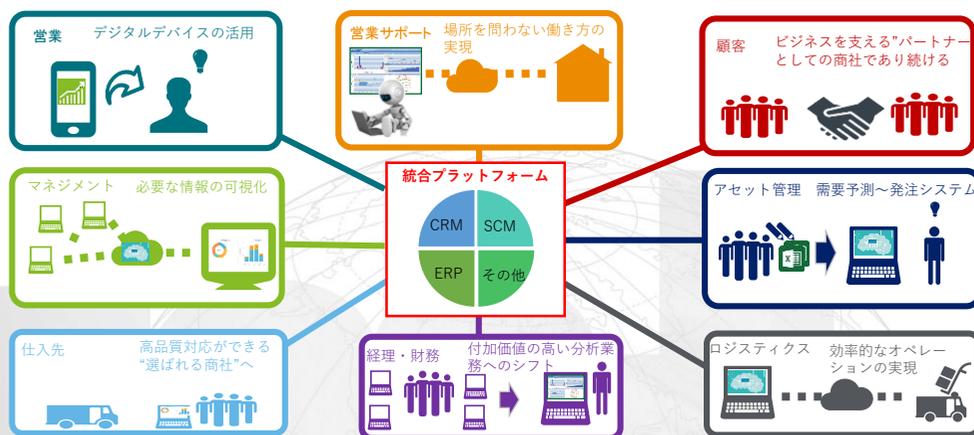
2 新規付加価値事業戦略

■ AI

CrowdANALYTIX



3 さらなる業務効率及び資産効率の改善と経営システム基盤への投資



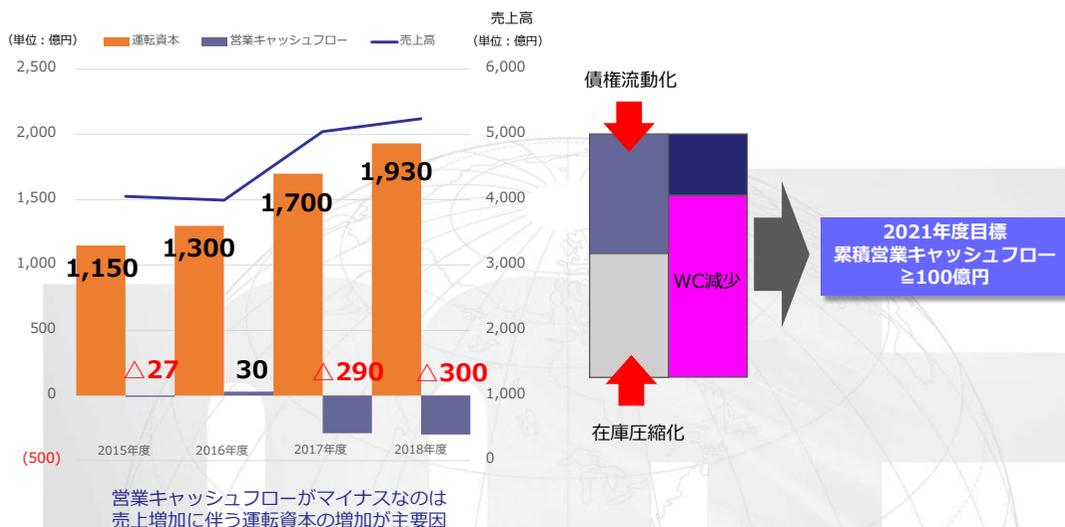
4 経営数値目標及び財務・資本施策

■ 経営数値目標

	2021年度目標	2018年度実績
連結売上高	6,500億円以上	5,242億円
連結当期純利益	130億円以上	89億円
連結ROE	9.0%以上	6.9%
営業キャッシュフロー	3年間累積100億円以上	△302億円

4 経営数値目標及び財務・資本施策

■ 財務・資本施策：営業キャッシュフローの創出



4 経営数値目標及び財務・資本施策

資本コストを意識した経営

ROEの向上

営業キャッシュフローの拡大

事業規模に見合った自己資本額

有利子負債を主体とした資金調達

安定的な配当

コーポレートガバナンスの強化



■ 代表取締役の異動（2019年6月25日予定）

1. 異動の理由

現任の代表取締役社長 中島 潔が代表取締役会長に就任し、下記のとおり代表取締役2名を新たに選任することとしました。代表取締役を3名体制にすることにより、経営環境の変化に迅速に対応するとともに新規ビジネスモデルの創出及び事業基盤の強化を目指すものです。

2. 異動の内容

代表取締役会長 中島 潔（現・代表取締役社長）
代表取締役社長 原 一将（新任）
代表取締役副社長 三好 哲暢（新任）

■ 執行役員制度の導入（2019年6月25日予定）

当社グループを取り巻く経営環境の急激な変化に適切かつ迅速に対応するため、経営の意思決定および監督機能と業務執行機能を分離し、経営の合理化・効率化とともに、業務執行責任の明確化を図るものであります。

■ 譲渡制限付株式報酬制度の導入（2019年6月25日予定）

当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えると同時に、株主様の皆様との一層の価値共有を進めることを目的とした制度であります。

